

「伊豆大島，三宅島の次回の噴火を考える」

日時：平成 29 年 12 月 25 日（月）13：30～12 月 26 日（火）12：00

場所：東京大学地震研究所 第 1 会議室（2 号館 5 階）

前回の噴火から，伊豆大島では 30 年，三宅島では 20 年近く経過し，共にこれまでの平均的な噴火間隔に迫っています．これら伊豆諸島の火山は，テクトニックな環境から広域応力場が卓越する火山であり，そのため急速なマグマの移動現象であるダイク貫入が日本の他の火山より頻繁に発生すると思われる火山です．ダイク貫入現象は，山麓においてもマグマが突然噴出して火山災害を引き起こす可能性があると同時に，マグマの動きを具体的に知ることができるだけでなく，カルデラ陥没との関係が示唆されるなど火山学的に大変興味深い現象です．火山防災の観点からも，火山研究の上でも大変重要なテーマです．この研究集会では，今から両火山の次期の噴火についての科学的な議論を始め，火山噴火予測につながる知見を集めると同時に，今後どのような研究を推進すべきかを議論しようという趣旨で開催します．想定している内容は以下の通りです．

- （１）長期的な視点から過去の両火山の噴火について，解明されたこと，解明されずに残っていることの整理．特に，両火山の大規模噴火はどのようにして起こるのか．
- （２）両火山の前回の噴火の際に現れた前兆現象，噴火事象の推移を裏付ける観測事例の整理．物質科学的な知見の整理．特に，情報のまとめが少ない第 2 期噴火から活動終了までの現象の整理．
- （３）他の火山の噴火現象との比較研究の観点から，両火山で今後進めることが望ましい研究の提案

上記の内容について話題提供者を募集いたします．また，上記以外の議論を提案される方も歓迎いたします．話題提供者には，地震研究所の共同利用経費から旅費を支給いたします．

多数の皆様の参加をお待ちします．

問い合わせ先： 森田 裕一 (morita@eri.u-tokyo.ac.jp)